

令和3年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表(年度末報告書)

評価計画			自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策				
令和3年度教育目標	分類	令和3年度の重点目標と具体策	令和2年度末の次年度への改善策 *学校評価	評価指標	項目	評価		成果と課題	評価	意見	
人とつながって生きる力を向上させる(人間力)…多文化協働力	1	自他の人権を尊重し、互いが高め合う切磋琢磨を推奨する。	生徒に柔らかに丁寧に向き合い、生徒が安心して学べる集団作りを行う。	生徒指導上の問題については、今後も迅速に対応できるように校内組織や外部機関との連携をさらに密にする。すべての教育活動の基盤に生徒指導を据え、人権感覚を高めるための研修や授業改善を進める。	・生徒の感想文。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。 ・いじめアンケート等の分析。 ・平素の生徒の観察。	1,2	A	生徒に対し体系的な人権教育を実施する一方、教職員も校外研修に参加するなど、学校全体で人権尊重を基盤とする教育活動を推進した。いじめやSNSでのトラブル等の生徒指導上の問題は、生徒部と学年会が連携して取り組み、いじめ対策委員会等を実施して、組織で解決に向けて対応した。今後も情報リテラシーに関する継続的な指導が必要である。	A	人権意識の育成といじめ防止の取組について、生徒と保護者の意識に乖離を感じる。保護者の啓発や情報発信への注力に今後も期待する。	すべての教育活動の基盤に生徒指導を据え、人権感覚を高めるための研修や授業改善を進める。入学後の早い段階で生徒が他者と協働するための取組や情報モラル教育を実施していく。
	2		生徒支援委員会の機能を活かしつつ、職員会議等で支援を要する生徒についての情報を全教職員で共有し支援する。特別支援教育に係る研修等を実施し、教員の資質・能力の向上を図る。	・対象生徒の状況。 ・スクールカウンセラーの活用状況。 ・気づきシートや支援計画・指導計画の作成と活用状況。	3	A	生徒や保護者との面談を通して生徒支援委員会や職員会議等で支援の必要な生徒の校内での情報共有を図ってきた。保健相談部と学年会が連携して、本人・保護者の希望や働きかけによってスクールカウンセラーを利活用できた。特別支援教育コーディネーターは、個別の支援が必要な生徒の相談窓口となり、保護者と協力して生徒への支援を行うことができた。	学校での活動内容等が保護者にあまり伝わっていない面を感じるが、様々な活動をおして生徒の主体性が養われているところは高く評価できる。		生徒支援委員会の機能を活かすとともに、学年会と連携して校内の教育相談体制(教員の支援は教員が行い、心理的支援はSC、福祉的支援は学校福祉連携推進教員へ繋ぐ)を充実させる。	
	3		生徒に様々な活動に参加させ、生徒のコミュニケーション能力を高める。	生徒会を中心に、学園祭の企画や学校生活のルールの見直し等、生徒が提案して実践する機会を意識的に増やす。部活動については、生徒数の減少などの実態をふまえながら、活性化を進める。	・部活動加入状況。 ・HPや学校だよりでの情報発信の状況。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	4	A	部活動に全校生徒の8割強が加入し、上位大会で結果を出す部が増えた。生徒会が中心となって企画運営した学園祭(東雲祭)は、感染症対策を工夫して実施し、生徒から高評価を得た。生徒が自分たちで企画して実践していく自主的な活動が増えつつあるので、今後は、そうした主体性をさらに広げていく工夫が必要である。		生徒の肯定的な評価が高いことから、学校生活における充実ぶりを感ずることができている。	部活動は生徒数の減少などの実態をふまえながら、さらに活性化を推進する。生徒会や委員会活動、校外での活動など、生徒が主体的に関わり実践する活動の機会を意識的に増やす。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる(学力)…主体的学習者としての力、探究的学習力	4	自ら取りに行く学びを实践する生徒を育てる。	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善に全教職員で取り組み、生徒の家庭学習時間を確保させる。	より効果的な学習指導ができるように教務部、進路指導部と学年会の連携をこれまで以上に進める。主体的に学ぶ必要性を生徒が実感し、行動に移すことができるように教科会を中心に取り組む。	・授業評価アンケートの結果。 ・学習時間調査の結果。 ・学習成績、実力テスト成績。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	5,6	B	授業評価アンケートでは概ね良好な結果が得られたが、学習時間調査、ETC、模試等の結果から、学習時間や基礎学力の定着に結び付いていない生徒がいることが把握できる。生徒の学力を定着させ伸ばしていくためには、さらに生徒が主体的な「取りに行く学び」に結び付ける動機付け、働きかけを継続的にを行い、学習指導を工夫していく必要がある。	B	生徒の学習に対する目的・目標・意識を高め、1日の時間の使い方を考えた指導の充実を期待する。また、保護者と連携し、生徒の学習意欲の向上を図ってほしい。	教務部と学年会が中心となって、進路指導部・魅力化推進部と連携を深め、効果的な学習指導体制の構築を進めていく。主体的に学ぶ必要性を生徒が実感し、行動に移すことができるように学年会を中心に取り組む。
	5		進路指導部と魅力化推進部、学年会の協働を今後も進め、島根大学や地域等の外部人材も活用しながら、生徒の主体的なキャリア形成に寄与する授業、行事の展開と工夫を行う。	・公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業評価アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。 ・学習センター(図書館)に関する生徒アンケート及び貸出率	7	B	校内での研修機会や経験者研修等に合わせて校内や島根大学への授業公開を実施し、授業改善に取り組むことができた。今後は授業改善の研究と実践を進めていく必要がある。学習センターは図書展示の工夫や移動図書館等で活動を活性化しており、授業での活用の充実など、今後も学習センターの機能強化と広報活動を推進していく必要がある。	生徒が「自ら学びを取りに行く」ことに対し、教員が工夫して取り組む姿勢を高く評価する。様々な活動を通して生徒の主体性が養われているところが評価できる。		授業公開・研究授業、研修等に学校全体で取り組むことで教科横断的な取組をさらに進める。生徒の一人1台PCの効果的な活用を研究し、生徒の「取りに行く学び」につながる授業改善に取り組む。	
	6		キャリア教育を充実させ、生徒の進路目標を早期に設定させる。	大学入学共通テストの分析を行い、面談や学年PTA等を通じて生徒や保護者との情報共有を図る。学習内容と社会のつながりを意識させる等、1年次からの体系的な進路指導を行い、生徒が進路目標を設定できるように支援する。	・PTA総会への参加状況 ・生徒・保護者面談の実施状況。 ・進路検討会等への参加状況。 ・平素の生徒の観察。	10, 11	B	各学年が計画的に生徒面談を行い、進路や学習面でのサポート体制の充実を図った。また保護者面談を実施し、生活面も含めた家庭との進路情報の共有を図ることができた。今後は、進路の目標設定に関する生徒の主体性を引き出し、保護者との連携を深める必要があるため、現行の進路指導体制の再構築を行い、生徒の進路実現に寄与する機会を増やしていく必要がある。		生徒が「自ら学びを取りに行く」ことに対し、教員が工夫して取り組む姿勢を高く評価する。今後はICT等を活用した教育の充実のため、先生方の研鑽を期待する。	島根大学や地域等の外部人材も活用しながら、生徒の主体的なライフデザイン形成に寄与する授業や学校行事の展開と工夫を行う。進路指導部が中心となって学年会と協力した進路指導体制の再構築を図る。
	7		「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を通して島根大学や地域と連携を推進し、生徒が地域社会に貢献できる機会を増やす。	今後魅力化推進部と学年会の連携を図り、コンソーシアムの「戦略ワーキング」や「プログラム開発ワーキング」と協働しながら、「総合的な探究の時間」や学校設定科目の計画と実践を進める。	・高校魅力化アンケート。 ・総合的な探究の時間の各プログラム事後アンケートの結果。	12	A	島根大学や松江市役所、市内企業、川津公民館等と連携して、「総合的な探究の時間」の授業を中心に課題探究型の学習を実施している。また、東高カフェやキラ星共創プロジェクト等に主体的に参加する生徒が増えてきた。コンソーシアム等の外部資源と協働しながら、次年度以降の実践について取組の強化を推進していく必要がある。		他の評価項目に比べ、生徒・保護者・教員の評価のずれが大きい。改善の切り口は見えていないので、体制の再構築をお願いしたい。	地域や外部と協働した授業や活動をさらに展開し、生徒の主体的な地域・社会とのつながりを紡ぐ。生徒が自らのあり方・生き方を模索しながら、地域にアクションを起こして行こうとする力を育てる。
地域社会の今と未来に関わる力を育成する(社会力)…社会的自立力、地域共創力	9	ホームページや学校便り等により積極的に情報発信を行う。	学校の取組をすみやかに広報できるようHPの内容を充実させ更新頻度を高める。また、保護者や中学生の関心が高い課題探究学習や部活動の情報も充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を紹介する。	・保護者アンケート。 ・ホームページの更新状況や閲覧状況及び動画の視聴回数。	15	A	ホームページの更新頻度を上げ、学校だより「EASTNEWS」等の発行をおして本校の現状を継続的に発信している。今年度も本校のPR動画を作成して中学校に配布し、HPで公開した。また、中学校を訪問しての学校紹介の機会を活用でき、オープンスクール参加者が微増し、参加者の満足度が上昇した。今後は本校の魅力を伝える情報発信に注力していく必要がある。	A	コロナ禍の人・社会とのつながりへの影響を生徒がどのように考えるかが気になった。多様な層で社会が成立することから教員・生徒の広い視野を持つことに期待する。	感染症予防対策を今後も呼びかけ、校内環境の整備と改善を実施する。生徒が学びを振り返り、自分のこれからの生き方・あり方を探究する、校内や地域、外部での活動をさらに支援する。	
	10	ホームページや学校便り等により積極的に情報発信を行う。	学校の取組をすみやかに紹介するHPの更新頻度を高め、構成や内容の整理を行う。保護者や中学生の関心が高い課題探究型の学習や部活動の情報を充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を発信する。				広報活動の目的と手段を再度振り返り、時宜を得た情報の発信と共有を工夫されたい。		学校の取組をすみやかに紹介するHPの更新頻度を高め、構成や内容の整理を行う。保護者や中学生の関心が高い課題探究型の学習や部活動の情報を充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力を発信する。		